目を覚ませ、日本の製造業！

シン・メイド・イン・ジャパン

SHIN MADE IN JAPAN

小林延行
株式会社セルコ代表取締役会長

パラダイムシフトを起こすのは「ひらめき」と「行動」

脱下請けを実現し、100年に一度の大改革期でも成長を続ける中小製造業経営者が語る「日本のモノ造り」の真価とは。

日本のモノ造りは、なぜ世界から置いていかれるのか？

Discover BP
ディスカヴァー・ビジネス・パブリッシング

隙間産業からブレイクした会社〈事例〉

福井県に清川メッキ工業という、第1回ものづくり日本大賞、経済産業大臣賞、特別賞ほか、多数受賞しているメッキ屋さんがあります。

メッキの大事な役割は、基板上の各パーツを繋ぎ合わせることですが、この基板のチップの大きさがこの10年で約7分の1に縮小しております。この会社はこの流れを先取りし、粒径0・6㎛という銅の粒に均一なメッキを施すまでに進化させ「ナノメッキ」のオンリーワン技術を確立しております。しかも多品種大量生産を可能として他社を大きく引き離しているとのことです。

統計的に見ると、15年前に全国に約3000社あったメッキ企業は今や半数に激減し

ていますが、その中でこの清川メッキは、着実に業績を伸ばしているのです。

そして、品質管理はピカイチであり、1年間で1千億個以上メッキし、不良品「ゼロ」を誇っているとのことです。

この会社の原点は、「どの会社に頼んでも断られた」という仕事をやり遂げたことから、その後、どんな仕事が来ても断らないという姿勢で臨んだことにあったようです。

当社には「ノーと言わないルール」、「顧客ニーズは発明の母」というモットーがあり、「高密度コイル」を生み出しましたが、この清川メッキさんは、当社と同様、難しい仕事を断らず、顧客のニーズをクリアすることで「ナノメッキ」という他社が追随できない技術力を確立したということです。

この清川メッキは、メッキという国内では衰退産業に属する分野で、他社ではやっていない、やらない、できないメッキ技術の隙間に挑みこれを克服したという、この国の中小零細製造業の生き残り、さらに発展する企業のモデルになるのではないかと思います。